

番号	36	平成28年度公共事業再評価調査				担当課名 港湾整備課	
事業名	公害防止対策事業				事業主体	静岡県	
箇所名	たご 田子の浦港				関係市町村	富士市	
事業採択年度	平成 15 年度		計画期間	平成15年度 ～ 平成32年度			
用地着手年度	平成 - 年度		工事着手年度	平成 16 年度			
再評価理由※	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円 10,070	投資状況 (百万円)	～H26年度 7,675	H27年度 463	H28年度見込 460	計 8,597	
事業概要	(1)事業目的 田子の浦港における環境基準を超えるダ イキ シ ン 類を含む底質を除去することにより、人の健康を保護する上で望ましい環境基準を確保し、住民の安全・安心な生活を維持するとともに、港内や周辺海域の自然環境を保全する。 (2)事業内容 ダ イキ シ ン 類を含む底質54.2万³m³の除去・処分						
事業の必要性	【視点1】 (1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 平成14年にダ イキ シ ン 類による底質に係る環境基準値(含有濃度:※150^レコ^グラム)が告示・施行された。田子の浦港において調査を行ったところ、環境基準を超える底質の存在が確認されたことから、学識経験者等から構成された「田子の浦港底質(ダ イキ シ ン 類)浄化対策検討委員会」の指導を得て、平成16年6月に「田子の浦港底質(ダ イキ シ ン 類)浄化対策事業計画」を策定し、対策工事を実施している。 環境問題への社会の関心が高まる中、公害防止対策を安全かつ的確に実施し、環境基準を早期に達成することが求められている。 ※1^レコ^グラム=1兆分の1^グラム (2)事業の投資効果 現時点(H28)での分析結果: B/C=1.53 ・総便益(B)=186.0億円 底質環境改善便益:185.5億円 残存価値便益:0.6億円 ・総費用(C)=121.6億円 整備費:121.6億円 (3)事業の進捗状況 ・平成16年よりダ イキ シ ン 類を含む底質の除去に着手している。 【事業費】85.3% (H28末見込:8,597百万円/10,070百万円) 【事業量】88.0% (H28末見込:47.7万³m³/54.2万³m³) 評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない						
今後の事業の進捗の見込み	【視点2】 これまでは、ダ イキ シ ン 類を含む底質の除去、濃度の低い底質の処理および処分場の整備を実施してきた。 今後は、濃度の高い底質の運搬・埋立処理を計画しているため、これまでどおり、安全対策に万全を期するとともに、環境基準の早期達成に努めていきたい。 評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない						
新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	【視点3】 今後、処理する濃度の高いダ イキ シ ン 類を含む底質についても、学識経験者等から構成される委員会の指導を得ながら、安全で確実、かつ経済性に優れた処理方法を選定し、コスト削減を図る。						
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を(継続) ・ 見直し後継続 ・ 中止)する。 (2)理由 費用対効果も十分に認められ、底質環境改善に対する地域住民の期待も非常に大きいため、事業継続とする。						

田子の浦港公害防止対策事業（港内地区）
「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル（改訂版）平成23 年6 月」

【総便益】

総便益 B	186.0億円	底質環境改善便益、残存価値を計上
総費用 C	121.6億円	建設投資額を計上
費用便益比 B/C	1.53	

※検討期間は施設の建設期間+50 年間

【総便益】

①年間便益の算出

効 果	底質環境改善	残存価値	備 考
受益者	102,063 世帯 (田子の浦港を地先水面とする富士市民)	—	
把握方法	CVM（仮想的市場評価法） による支払意思額	新たに創出される 土地の面積×土地単価	※支払意思額はアンケートを実施して把握
支払意思額	9,915 円/年・世帯 (826 円/月・世帯)	—	
便 益	10.12 億円/年 (受益者数×支払意思額)	4.8 億円	※残存価値は供用から50 年後に便益として計上

「底質環境改善」:

住民の安全・安心な生活を維持し、港内及び周辺海域の自然環境を保全する。

②総便益の算出

供用後50 年間の各年度の便益を現在価値（H28）に換算し、社会的割引率4%を乗じたものを総便益とする。

総便益	供用後50年間の総便益（H33～H82）
	底質環境改善：185.5億円
	残存価値：0.6億円
	B：186.0億円

【総費用】

総費用＝建設投資額

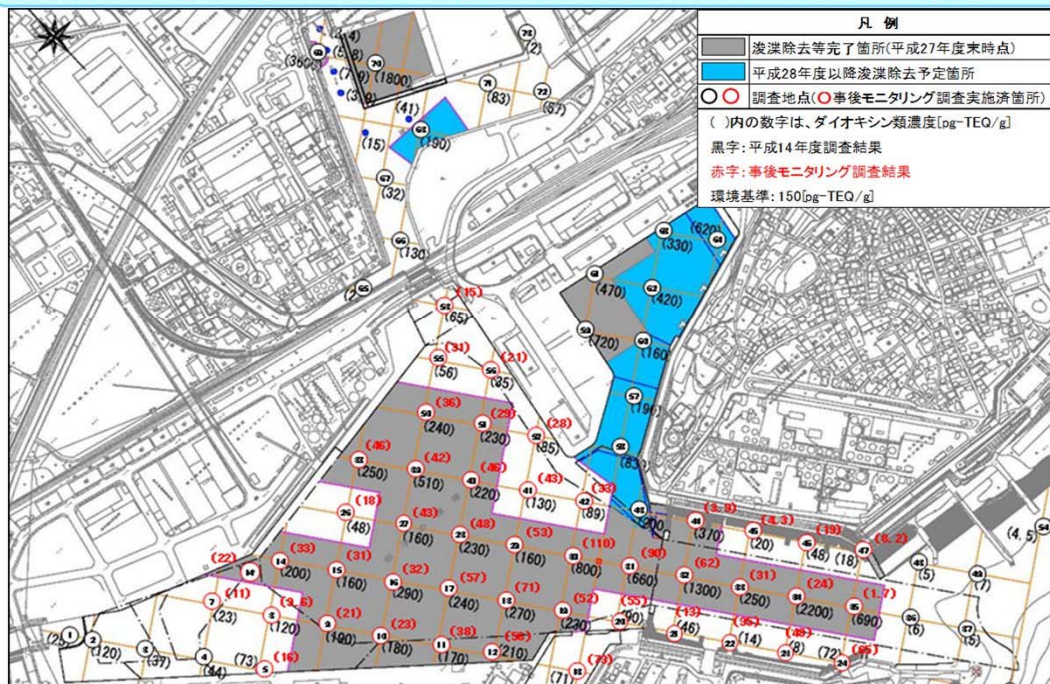
建設投資額	総費用
121.6	C：121.6億円

・「建設投資額」：各年度の整備費を現在価値（H28）換算して社会的割引率4%を乗じた合計。



1. 海底土砂の汚染状況

田子の浦港の海底には、環境基準値(150pg-TEQ/g)を上回るダイオキシン類を含む土砂が約54.2万m³堆積している。(平成14年度調査結果)



平成27年度末時点で、約84%にあたる45.8万m³の除去が完了し、事後モニタリング調査結果から環境基準を超える土砂は確認されていない。

2. 事業の概要

環境基準値を上回るダイオキシン類を含んだ海底土砂を除去し、周辺環境に影響のない方法で安全に処分する。

⇒ 住民の安全・安心な生活の維持、港内や周辺海域の自然環境の保全

<事業の流れ>



3. 事業の必要性 事業による効果

■本事業を実施することで得られる効果
(貨幣換算可能な便益)

- (1) 海底部の環境改善便益
 - ・住民の安全・安心な生活の維持
 - ・港内及び周辺海域の自然環境の保全
- (2) 残存価値(新たな土地の造成)

<その他の効果>

○航路・泊地の浚渫工事費の削減

3. 事業の必要性 地元の期待度

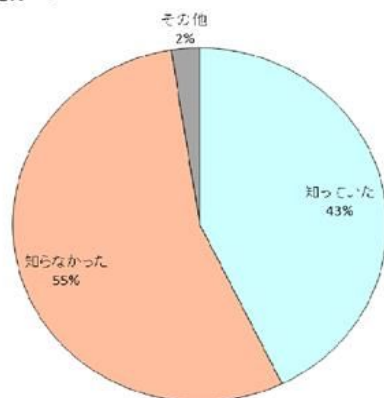
地域住民の本事業に対する認識度は高く、回答者の9割が本事業の必要性を感じている。

本事業に対する**住民の期待度が大きい**ことが伺える。

<アンケート結果>

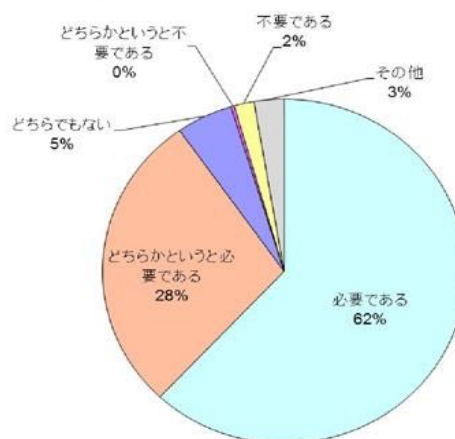
質問

あなたは、田子の浦港でおこなっている海底部の環境改善(海底に溜まったダイオキシン類を含む土砂を取り除く作業)をご存知でしたか？



質問

あなたは、田子の浦港のダイオキシン類を含んだ土砂を取り除く必要があるとお考えになりますか？



3. 事業の必要性 (1) 海底部の環境改善便益

① 便益の計測方法

受益者数 × 支払意思額

※受益者：富士市民を対象

※支払意思額：アンケート調査より把握(CVM)



② 便益の算定結果

受益者数：102,063世帯

※H27.10.1時点

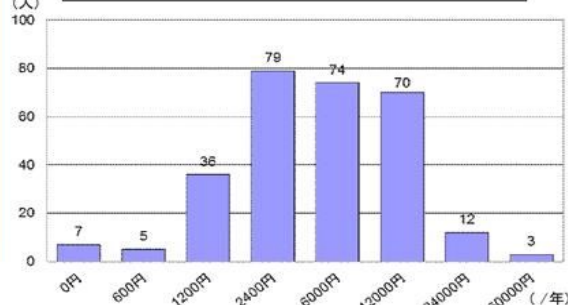
支払意思額：9,915円/年

(826円/月)

⇒**便益額：10.12億円/年**

<アンケート結果>

有効回答者の支払意思額



3. 事業の必要性 (2) 残存価値

① 便益の計測方法

新たに創出される土地の面積 × 土地単価

※新たに創出される土地: 依田橋水面貯木場処分場

※土地単価: 周辺地域の土地の取引価格より設定

② 便益の算定結果

新たに創出される土地の面積

・依田橋水面貯木場処分場: 2.0ha

・土地単価: 24,000円/㎡

⇒**残存価値: 4.80億円**

依田橋水面貯木場処分場



総費用(C) = 121.6億円

○事業費: 121.6億円

総費用: 各年度の整備費を現在価値(H28)に換算して、社会的割引率4%を乗じた合計

総便益(B) = 186.0億円

○海底部の環境改善便益: 185.5億円

○残存価値: 0.6億円

総便益: 供用後50年間の各年度の便益を現在価値(H28)に換算し、社会的割引率4%を乗じたもの

総費用(C)に対する総便益(B)

$$B/C = 1.5$$